

第2章

環境の現状と課題

第2章 環境の現状と課題

1. 安芸高田市の概況

(1) 位置

本市は、広島県の中北部に位置し、北は島根県邑南町、南は広島市、東広島市、東は三次市、西は北広島町に接しています。



(2) 行政組織

32の地域振興組織が、本市全域に設置されています。さらに、地域振興組織の活動連帯を図るため、町単位の6つの連合組織が設置されています。

表 2-1 安芸高田市の地域振興組織

安芸高田市
地域振興組織区域図



	組織名	設立年	世帯数	人口
1	吉田地区振興会	昭和53年	2,122	4,999
2	丹比地区振興会	昭和53年	641	1,553
3	可愛地区振興会	昭和53年	1,413	3,152
4	郷野地区振興会	昭和53年	556	1,370
5	土師・勝田地域振興会	平成15年6月	349	752
6	佐々井地域振興会	平成15年4月	415	954
7	下根地域振興会	平成15年8月	426	1097
8	上根・向山地域振興会	平成15年7月	416	1074
9	横田振興会	平成14年3月	341	999
10	本郷地域づくり協議会	平成13年7月	331	902
11	北振興会	平成13年12月	251	717
12	生桑振興会	平成14年9月	243	624
13	川根振興協議会	昭和47年2月	238	549
14	下佐振興会	昭和54年4月	162	379
15	志部府親交会	昭和58年1月	44	111
16	上佐一心会	昭和59年6月	161	401
17	船木振興会	昭和56年7月	258	529
18	房後連絡協議会	昭和57年6月	106	243
19	来原地区コミュニティづくり連絡協議会	昭和53年7月	607	1,425
20	羽佐竹振興協議会	昭和57年12月	148	370
21	小原地域振興会	平成14年11月	653	1,590
22	小田東地域振興会	平成15年1月	776	1,959
23	甲立地域振興会	平成14年6月	741	1,900
24	保垣地区振興会	平成15年7月	138	294
25	有留自治振興会	平成16年2月	107	278
26	長田上地域振興会	平成16年2月	148	339
27	長田下地域自治振興会	平成16年2月	156	335
28	向井原地域振興会	平成15年12月	265	644
29	坂下地域振興会	平成16年3月	229	561
30	坂中地域振興会	平成15年12月	187	448
31	坂上地域振興会	平成15年12月	131	283
32	戸島地域振興会	平成16年2月	463	1,137

(世帯数・人口=平成22(2010)年4月1日現在/住民基本台帳)

資料：市勢要覧

(3) 人口・世帯数

平成22(2010)年国勢調査(速報値)によると、本市の人口は31,497人(昭和60(1985)年比14.7%減)、世帯数は11,741世帯(同4.6%増)となっており、一世帯当たりの人数は昭和60(1985)年3.29人から2.68人へと減少しています。単独世帯の増加や核家族化が進んでいることがうかがわれます。

年齢別階層別人口比率では、65歳以上の高齢者比率は平成17(2005)年32.5%で、これは平成7(1995)年から5.0%高くなっています。全国、広島県の比率と比較して非常に高いことが分かります。

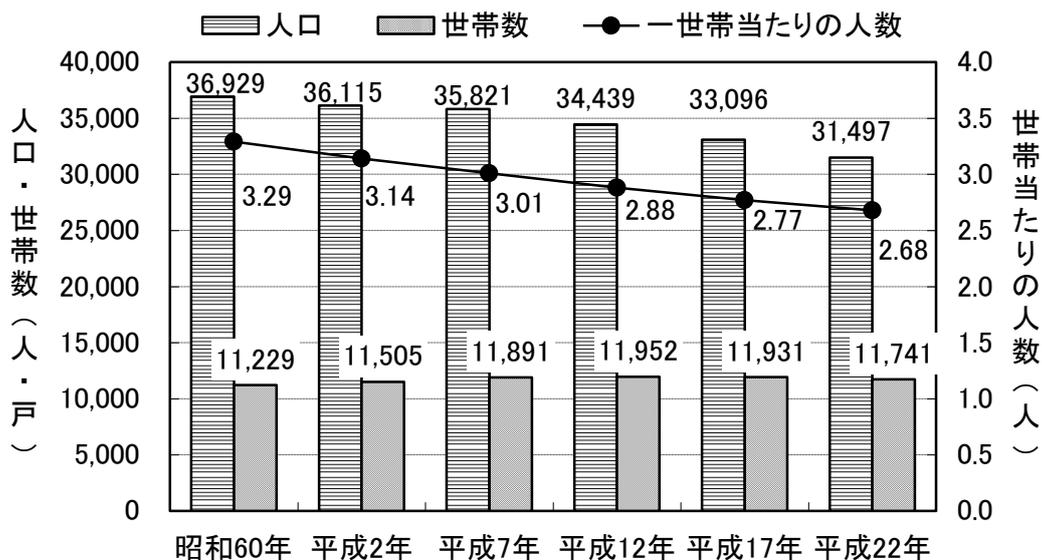


図 2-1 人口・世帯数の推移

資料：国勢調査

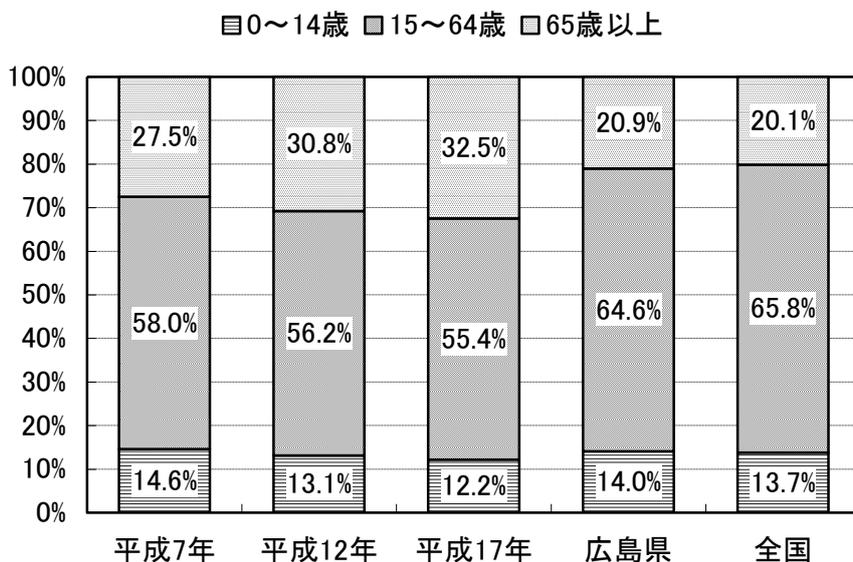


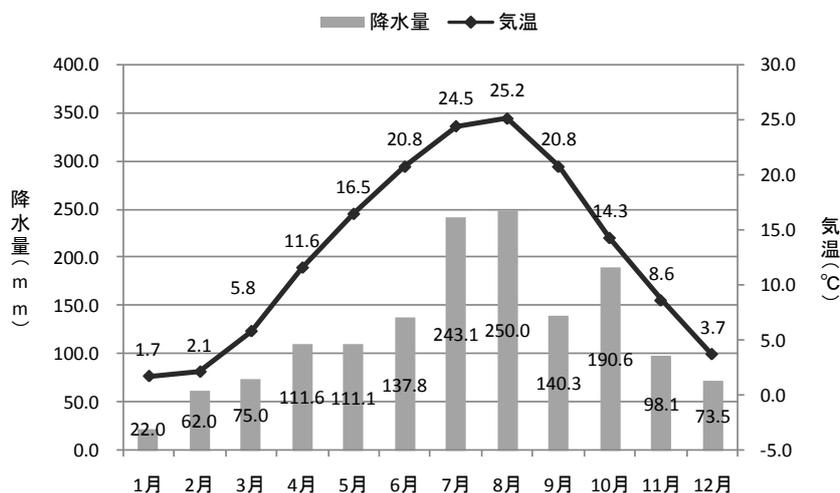
図 2-2 年齢階層別人口比率の推移

資料：国勢調査

広島県、全国は平成17(2005)年

(4) 気候・気象

本市の平年値(昭和54(1979)年～平成12(2000)年)は、年平均気温13.0℃、年間降水量1,515.1 mmとなっています。中国山地内陸型の気候で、瀬戸内海沿岸に比べると、冬季の気温は低く、夏季は比較的冷涼な特性を有し、市の北部は豪雪地帯に属しています。



資料：気象庁三次気象観測所（気温）、甲田気象観測所（降水量）

図 2-3 月平均気温と降水量(昭和 54(1979)年～平成 12(2000)年)

(5) 地形・地質

市域内に、急峻な山岳はみられませんが、鷹の巣山、大土山、犬伏山等大小さまざまな山に囲まれ、市域面積の約8割を森林が占め、小起伏の丘陵と小盆地が帯状に形成されています。

(6) 産業

産業別就業者比率

本市の産業別就業者比率は、第1次産業が平成12(2000)年から平成17(2005)年にかけてわずかに減少、第2次産業が減少傾向にあります。第3次産業は増加傾向にあり、平成17(2005)年には50%を超えています。

全国、広島県と比較すると、第1次産業の比率が高く、第3次産業の比率は低い状況です。

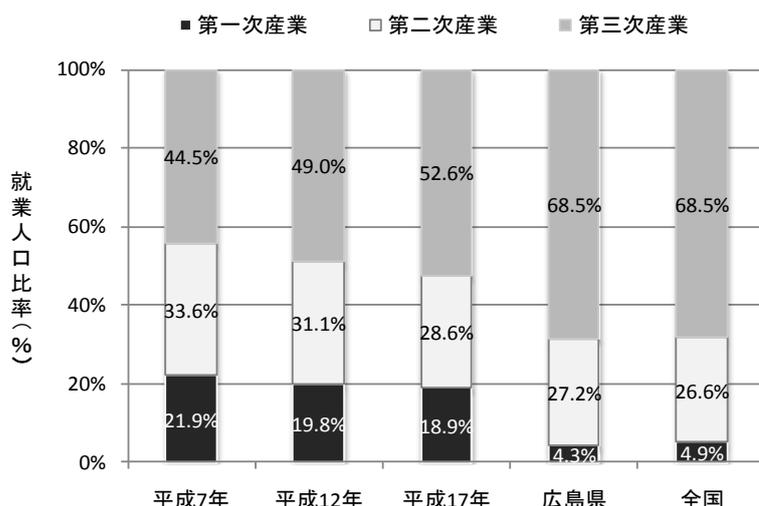


図 2-4 産業別就業者数の推移

資料：国勢調査

広島県、全国は平成 17(2005)年

(7) 農業

農家数、耕地面積

本市の農家数は、減少傾向が続いています。

耕地面積は、県全体の9.1%に当たる3,322 ha、利用形態別耕地面積の割合は、水田の占める比率が90.9%と高くなっています。

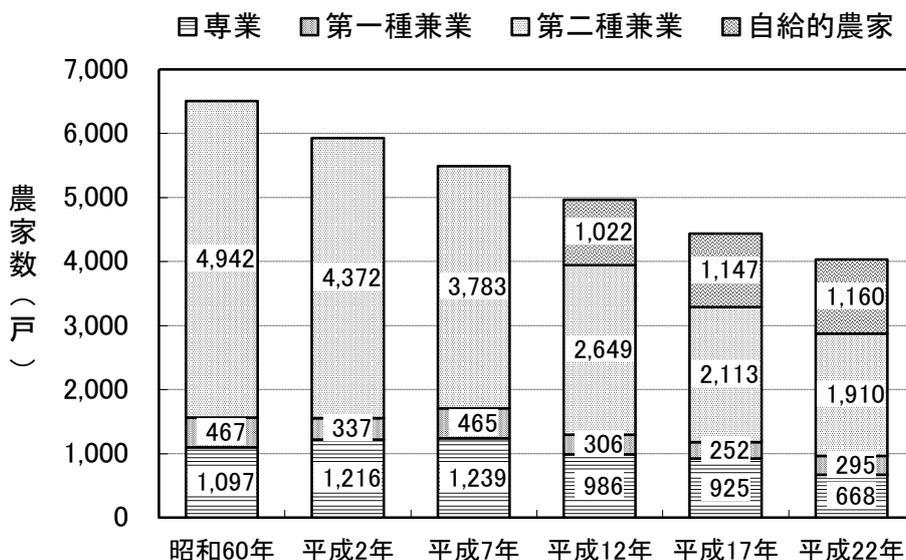


図 2-5 専兼業別農家数の推移

資料：農林業センサス

農業算出額

本市の平成 18(2006)年農業算出額は 633 千万円となっており、そのうち米が 259 千万円で 40.9%を占めています。

表 2-2 農業産出額

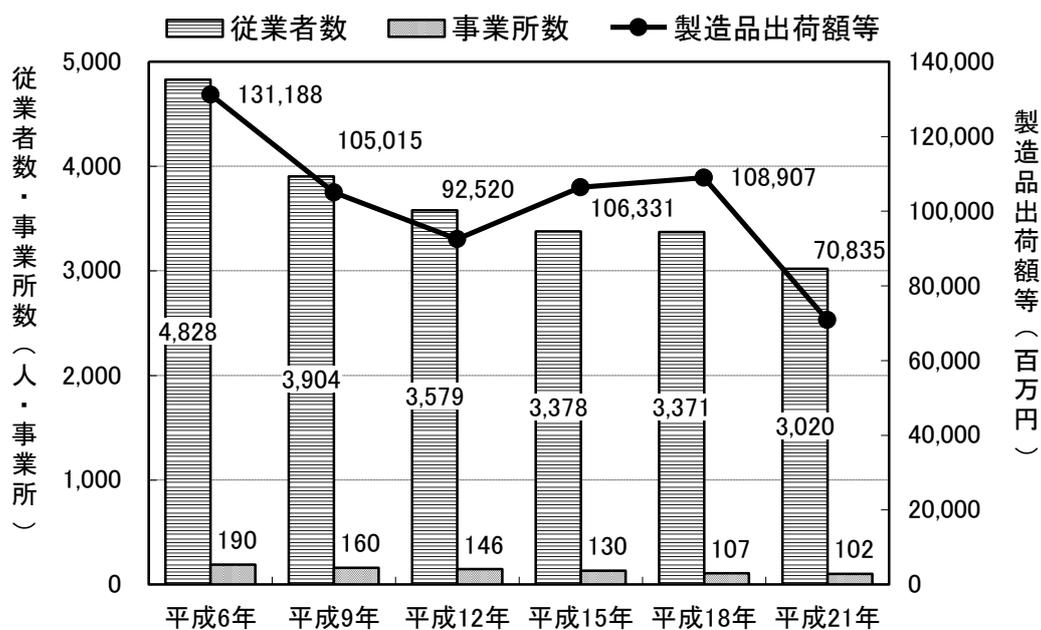
単位：千万円

種別	金額
耕種計	381
米	259
豆類	3
いも類	3
野菜	100
果実	10
花き	4
種苗・苗木類・その他	2
畜産計	252
肉用牛	45
乳用牛	68
生乳	60
鶏卵・鶏・その他	79
農業産出額(総計)	633

資料：農林水産省 市町村の姿

(8) 工業

従業者数、事業所数ともに減少傾向にあります。製造品出荷額等は、平成 6(1994)年から平成 12(2000)年にかけて減少し、平成 15、18(2003、2006)年は増加に転じましたが、平成 21(2009)年には再び減少しています。

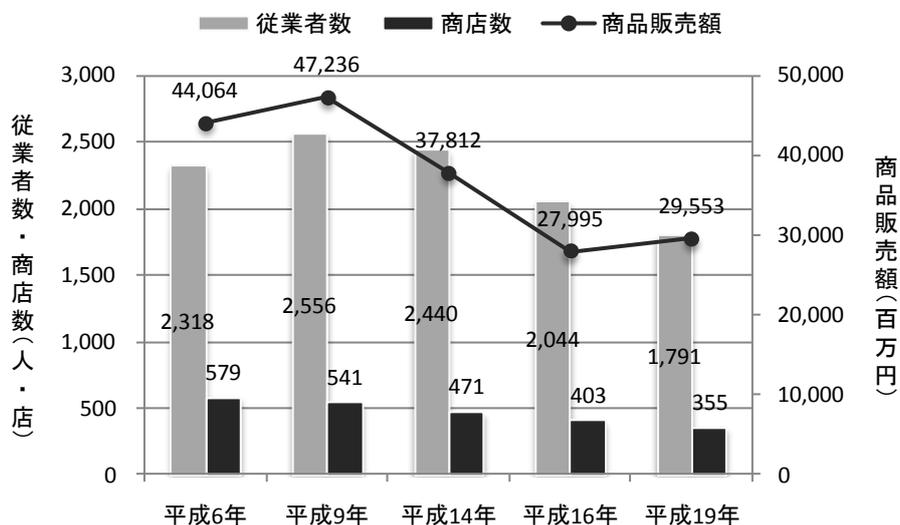


資料：工業統計調査 (従業員 4 人以上事業所)

図 2-6 従業者数、事業所数、製造品出荷額の推移

(9) 商業

平成6(1994)年から平成19(2007)年にかけては、従業者数、商店数ともに減少が続いており、平成19(2007)年の商品販売額は、平成16(2004)年からはやや増加していますが、平成9(1997)年比では62.6%と大きく減少しています。



資料：商業統計調査

図 2-7 商品販売額と商店数等の推移

(10) 観光

本市の主要な観光施設の入込観光客数推移は、施設別では増減があるものの、全体では減少傾向が続いており、平成20(2008)年の入込客数合計は、平成16(2004)年比76.0%になっています。

表 2-3 観光地別入込観光客数

単位：人

	平成16年	平成17年	平成18年	平成19年	平成20年
吉田歴史民俗資料館	7,252	6,151	6,268	5,766	5,880
神楽門前湯治村	170,720	159,019	159,019	134,907	129,958
たかみや湯の森	152,554	100,481	140,062	135,746	115,282
合計	330,526	265,651	305,349	276,419	251,120

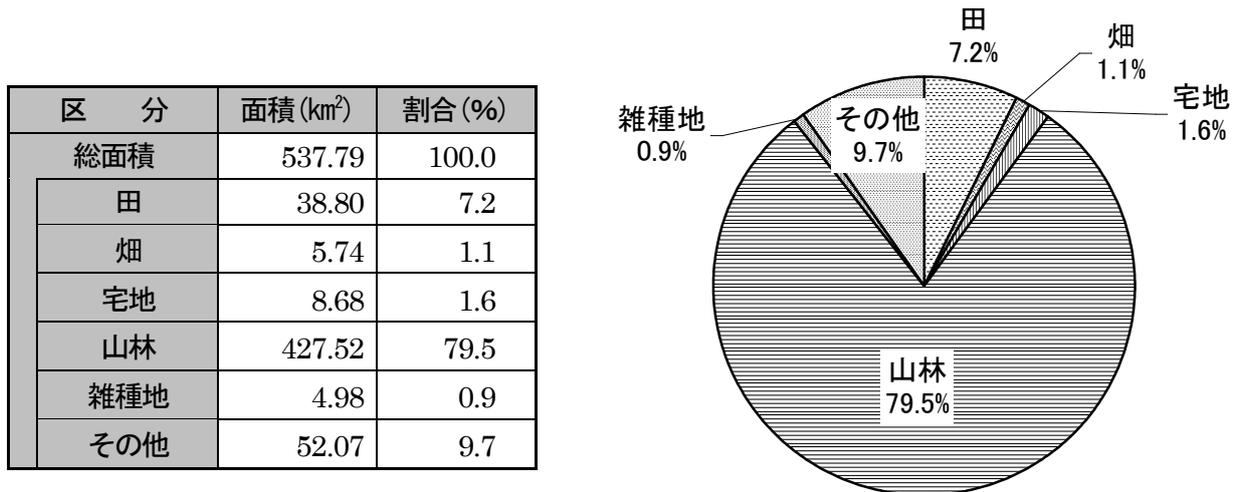
資料：県内主要・有料観光施設の月別利用状況

2. 環境の現状と課題

(1) 自然環境

① 自然景観

総面積は537.79 km²、市域の約8割を森林が占めています。水田の面積は7.2%、畑の面積は1.1%です。



資料：平成 20～21 年 広島農林水産統計年報 平成 21(2009)年 3 月 中国四国農政局広島農政事務所
平成 21 年版 市町村税の概要 平成 22(2010)年 3 月 広島県総務局税務課

図 2-8 土地利用状況

② 森林

本市の森林のうち、民有林では針葉樹天然林、広葉樹天然林の面積の占める割合がそれぞれ 40.0%、24.4%と高くなっています。この天然林は、ほとんどが人間の利用後に再生した森林（里山林）です。一方、森林を構成する木の体積を表す森林蓄積は、植栽されたスギ（人工林）が多くなっています。

表 2-4 森林面積

単位：ha

総 数	民 有 林							国有林
	総 数	人 工 林		天 然 林		竹 林	無立木地	
		針葉樹	広葉樹	針葉樹	広葉樹			
42,502	38,252	10,084	378	16,982	10,379	50	370	4,250

資料：第 54 回広島県統計年鑑（平成 21(2009)年版）

表 2-5 森林蓄積（民有林）

単位：千 m³

総 数	針 葉 樹					広 葉 樹	竹 林
	総 数	ス ギ	ヒノキ	マ ツ	その他		
6,288	4,836	2,690	1,441	684	21	1,426	26

資料：第 54 回広島県統計年鑑（平成 21(2009)年版）

③ 川

河川は、市中央部を江の川が貫流しており、北部は生田川、本村川が東流して江の川に注ぎ、南部は、三篠川が西流して太田川に合流しています。こうした地形により、自然と田園風景が調和した景観が形成されています。



図 2-9 水系図

④ 動植物

県内の優れた自然環境の保全を図るための自然環境保全地域等に、市域で3ヶ所が指定されています。

小掛峡は地形学的に特徴のある峡谷で、多彩な植物相に恵まれています。大沢湿原は、地形的、植生的に貴重な湿原で、特徴的な植物が生育しているほか、湿地特有の昆虫も数多く生息しています。郡山は、吉田町の市街地に面した郡山城跡を中心とする歴史的資産とその周辺地域の自然林が一体となって良好な生活環境を形成しています。



サギソウ

表 2-6 県自然環境保全地域等の指定状況

名称	指定状況	所在	面積
小掛峡	県自然環境保全地域	高宮町川根	52.1ha
大沢湿原	県自然環境保全地域	八千代町佐々井及び土師	56.62ha
郡山	緑地環境保全地域	吉田町吉田	95.34ha

資料：広島県資料

(2) 生活環境

① 大気

大気汚染は、主に工場、事業場から排出されるばい煙や自動車の排出ガスにより引き起こされます。温暖化や酸性雨の原因となるだけでなく、濃度によっては人の健康を損なうことがあります。本市では、特に問題となっていないことから、定期的な大気についての調査は行われていません。

② 水質

水質汚濁は、主に家庭排水、工場・事業場からの排水により引き起こされます。

主要な河川では、BODが環境基準を達成しています。一方湖沼では、CODは環境基準が達成できていますが、全窒素、全リンは環境基準が達成できていません。

表 2-7 環境基準達成状況（河川）

水系名	測定地点名	類型	環境基準地点数	項目	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
太田川	三篠川	A	4	BOD	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
江の川	多治比川	A	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	本村川	A	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	生田川	A	1		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○

資料：平成13～22(2001～2010)年版環境白書、広島県

表 2-8 環境基準達成状況（湖沼）

測定地点名	類型	環境基準地点数	項目	H12	H13	H14	H15	H16	H17	H18	H19	H20	H21
土師ダム貯水池 (土師ダム湖)	A	1	COD	—	○	○	○	○	○	○	○	○	○
	II	1	全窒素	—	×	×	×	×	×	×	×	×	×
	II	1	全リン	—	○	○	○	×	○	×	○	○	×

※ () 書きは暫定基準の達成状況を示す。

暫定基準適用水域：土師ダム貯水池（全窒素：0.43 mg/L、全リン：0.020 mg/L）

資料：平成13～22(2001～2010)年版環境白書、広島県

③ 騒音・振動

騒音・振動の発生源には、自動車、鉄道、工場、建設作業などがあり、市民の日常生活に及ぼす影響が大きいことから身近な問題となっています。

本市では、定期的な騒音調査が行われており、平成22(2010)年度は環境騒音（21ヶ所）と道路交通騒音（24ヶ所）について調査しています。同年度調査結果によると、環境基準は概ね達成できています。振動については、特に問題となっていないことから、調査は行われていません。

④ 悪臭・土壌

本市では、ここ数年事業活動に伴う臭いの苦情が寄せられていません。

土壌汚染については、広島県が土壌環境基準に適合していないとして指定する「指定区域」は、広島県内にはありません（平成20(2008)年度調査）。

⑤ 廃棄物

廃棄物には、家庭や事業場等から排出されるごみやし尿等の「一般廃棄物」と工場・事業場等から生産活動に伴って発生する「産業廃棄物」とがあります。

本市における一般廃棄物の1人1日あたりの排出量は、全国平均、広島県平均よりも少なくなっています。リサイクル率は全国平均、広島県平均を上回っています。

し尿及び浄化槽汚泥の処理量は、減少傾向にあります。

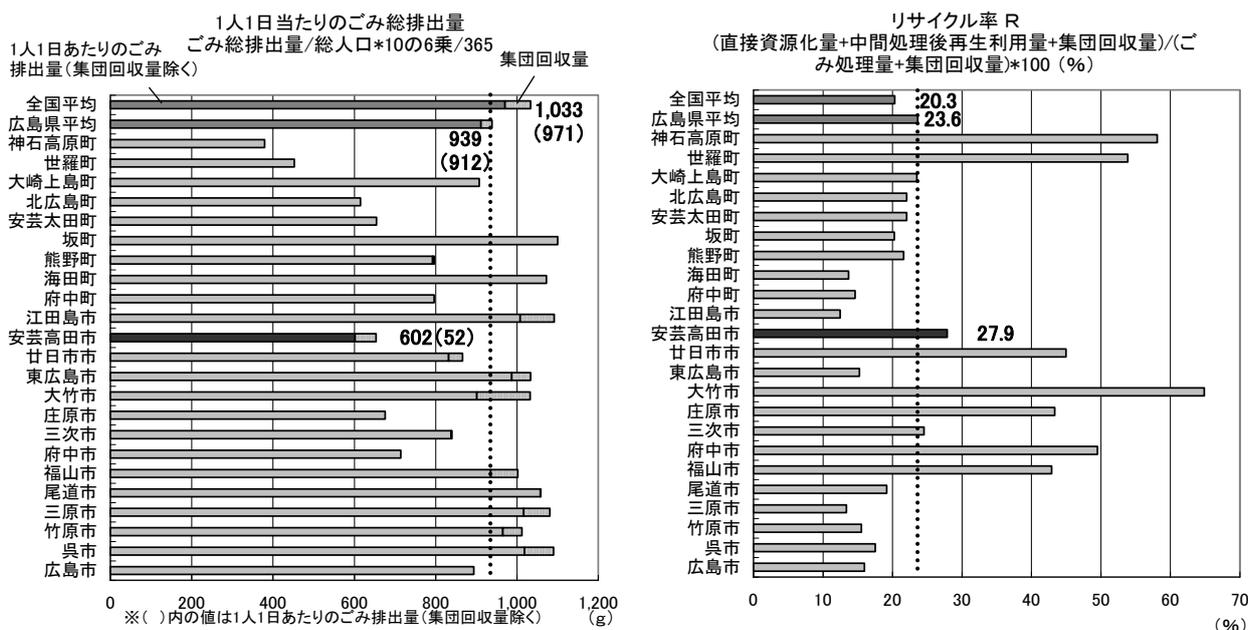


図2-10 本市のごみ排出量、リサイクル率等の他都市との比較

資料：一般廃棄物処理実態調査結果(平成20(2008)年度)、環境省

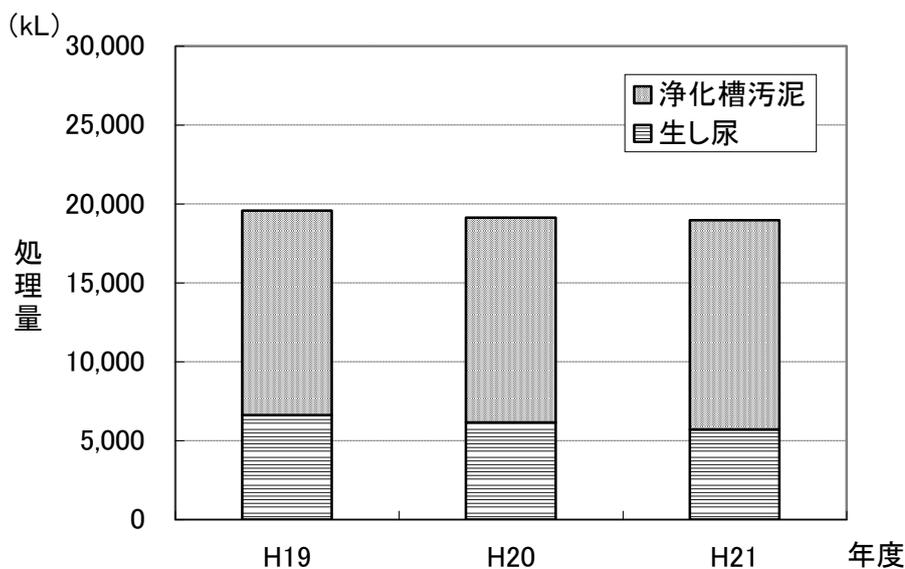


図2-11 本市のし尿及び浄化槽汚泥処理量の推移

資料：安芸高田市資料

(3) 地域環境

① 歴史・文化・景観

本市は、毛利氏を中心とした歴史的資源や、神楽・花田植等の郷土芸能など地域特有の文化を継承し、また、サンフレッチェ広島や湧永製菓ハンドボールチームなど競技スポーツの拠点となっています。多くの人々が個性ある文化・スポーツに親しみ、新たな文化を創造する地域づくりに向けて、多様・有効に活用していく必要があります。

② 交通

本市は、地方中枢都市広島市と備北地域の中心都市三次市の間であって、市内を横断する中国縦貫自動車道に高田インターチェンジが所在しており、一般国道54号、433号、主要地方道広島三次線、吉田邑南線などの幹線道路が走っています。鉄道はJR芸備線、JR三江線が通っており、高速道路や鉄道など多様な交通手段が確保され、交通利便性は比較的良好です。

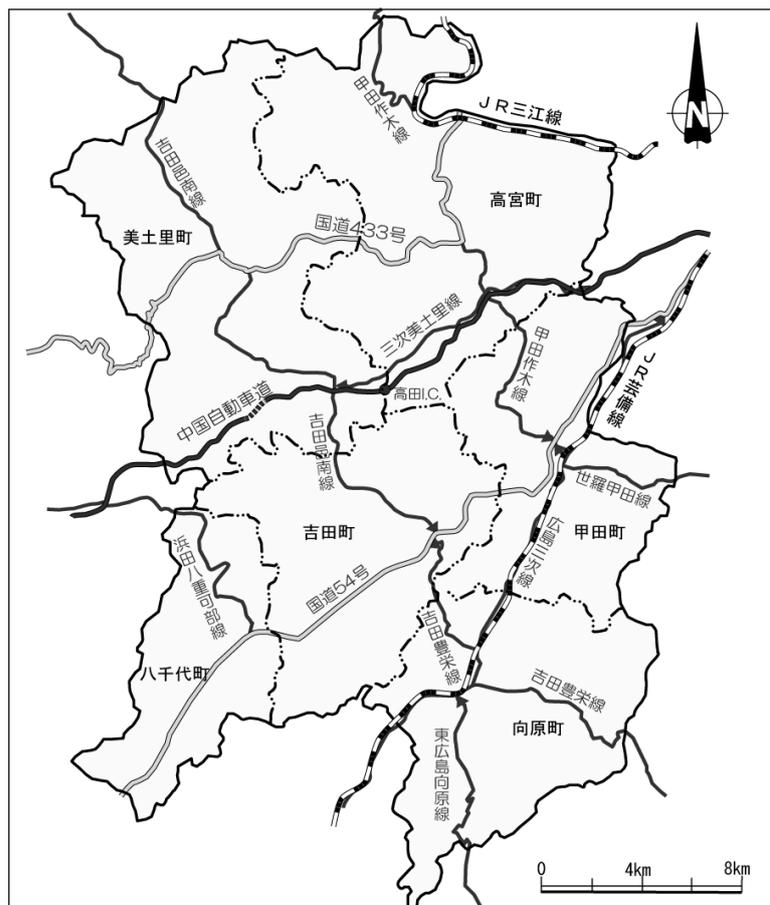


図 2-12 道路網・鉄道網図

③ 公園・緑地

本市には、土師ダム、吉田サッカー公園、たかみや湯の森、湧永満之記念庭園、神楽門湯治村などが整備され、年間約140万の人が訪れるなど、多様な観光・リクリエーション資源が立地しています。また、表2-9のとおり、スポーツ施設、生涯学習施設などの公共施設があります。

広域ネットワーク形成などを通じて活発な交流を促進していくとともに、農業など他産業への波及効果を高め、地域経済全体の活性化を促進していくことが必要です。

表 2-9 主な公共施設

区分	公共施設名
スポーツ施設	吉田運動公園
	吉田サッカー公園
	吉田温水プール
	大浜運動公園
	吉田長屋河川敷グラウンド
	吉田丹比グラウンド
	吉田落合河川敷グラウンド
	八千代町サイクリングターミナル
	八千代B&G海洋センター
	美土里体育センター
	美土里B&G海洋センター
	高宮B&G海洋センター
	高田原スポーツ広場
	甲立多目的広場
小原多目的広場	
向原運動広場	
生涯学習施設・図書館	安芸高田少年自然の家
	安芸高田市民文化センター
	吉田文化創造センター
	安芸高田市立中央図書館
	八千代文化施設フォルテ
	美土里生涯学習センターまなび
	高宮田園パラッツォ
	エコミュージアム川根
	甲田文化センター ミューズ
	甲田図書館
	向原公民館
向原若者センター	
商工観光施設・美術館・博物館	ふれあいたかた産直市
	向原農村交流館やすらぎ
	芸術農園「四季の里」
	安芸高田歴史民俗博物館

④ 上下水道

水道は、使用者の日常生活や社会活動を支えるために欠くことのできない施設です。本市では、水道事業、簡易水道事業、飲料水供給事業が行われています。また、これらの事業の給水区域以外の飲用水が不足する地区においては、飲用水の確保を目的として、井戸による水源整備に対し、事業費の一部補助を行っています。本市の水道普及率は73.4%です(平成22(2010)年3月31日現在)。引き続き、安全でおいしい水の安定供給が求められます。

公共下水道等の生活排水処理施設は、公共用水域の水質保全・トイレの水洗化、快適な生活環境の確保ために欠くことのできない施設です。本市では、生活排水処理のために、公共下水道、特定環境保全公共下水道、農業集落排水処理施設、コミュニティ・プラント、浄化槽設置整備が行われています。本市の市全体の汚水処理整備率(汚水処理人口による比率)は64.0%です(平成22(2010)年4月現在)。県内平均80.1%(平成20(2008)年度)より本市の整備率は低く、早急な整備が望まれます。しかし、財政状況が厳しい中で整備を進めるために、整備区域や手法の見直しを実施しながら、効率的な事業運営が必要とされます。

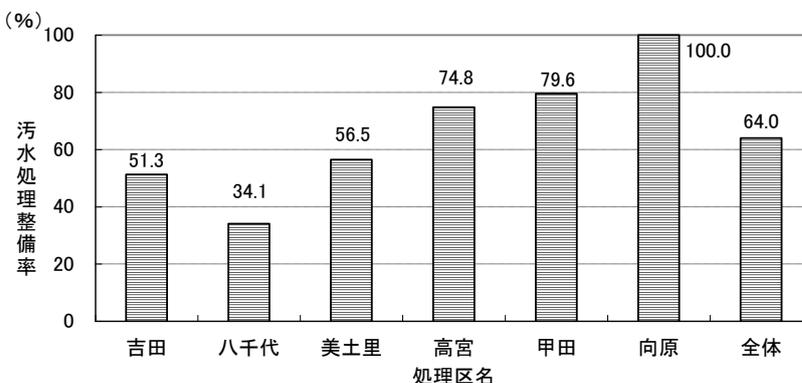


図 2-13 汚水処理整備率

(4) 地球環境

① 地球温暖化

地球温暖化は、人間の活動により二酸化炭素などの温室効果ガスの濃度が増加し、地表面の温度が上昇することで、近年、地球規模の大きな問題となっています。

本市においても、「安芸高田市地球温暖化防止実行計画」、「安芸高田市地域省エネルギービジョン」を策定するなど地球温暖化防止の取り組みを行っています。本市におけるエネルギー需要量及びエネルギー需要量から推計した二酸化炭素排出量は、表2-10、11のように推計され、平成20(2008)年度の二酸化炭素排出量は46万トンとなっています。二酸化炭素排出量の部門別割合を見ると、産業部門が50.4%、運輸部門が18.8%、民生部門が30.7%を占めており、産業部門と民生部門¹の占める割合が高くなっています。これは国全体と同様の傾向です。また、平成20(2008)年度の日本の二酸化炭素総排出量は12億133万トン、国民一人当たりの二酸化炭素排出量は9.5トンとなっています。これに対し、本市の平成20(2008)年度市民一人当たりの排出量は、14.0トンとなっており、国全体と比較すると、4.5トン多い数値となっています。これは、本市の製造業等の経済活動が活発に行われていることが要因と考えられます。

温室効果ガスの排出の大半は産業活動に起因しています。中でも二酸化炭素の排出にはエネルギー需要が大きく影響しており、徹底した省エネルギーや新エネルギーの導入が求められます。一方で、市民一人ひとりの地球温暖化防止の取り組みも必要不可欠で、家庭生活の中でできるかぎり資源・エネルギーの無駄使いをしないようにしていくことが重要です。

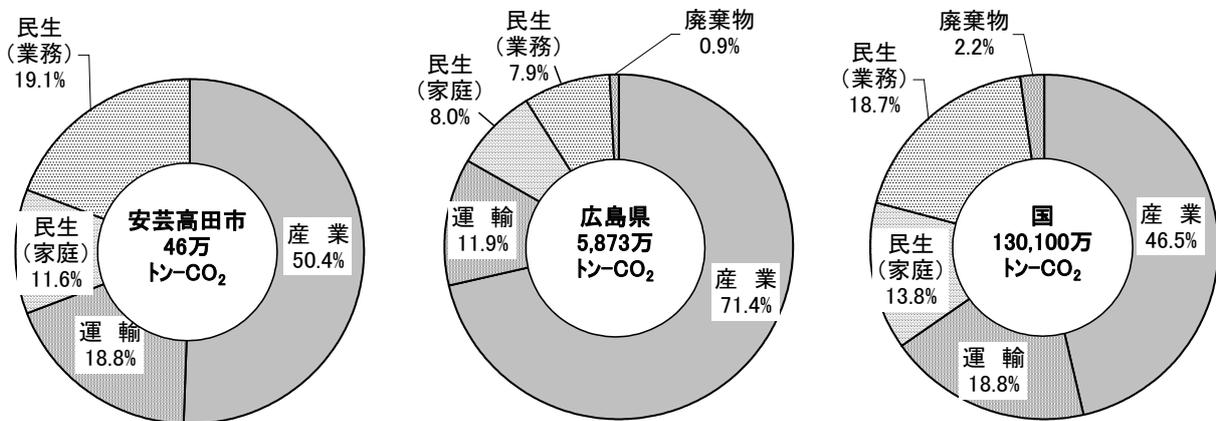


図 2-14 本市、広島県、全国の二酸化炭素排出量の部門別割合
(本市：平成 20(2008)年度、広島県、全国：平成 19(2007)年度)

資料：平成 22(2010)年版環境白書、広島県
安芸高田市地域省エネルギービジョン、安芸高田市

¹民生部門：民生部門は、家庭部門と業務部門の2部門から構成され、家庭部門は、自家用自動車等の運輸関係を除く家庭消費部門でのエネルギー消費を対象とし、業務部門は、企業の管理部門等の事務所・ビル、ホテルや百貨店、サービス業等の第3次産業等におけるエネルギー消費を対象としています。

表 2-10 エネルギー需要量(平成 20(2008)年度)

					原油換算 (kL)
	民生部門	産業部門	運輸部門	合 計	ドラム缶換算
電 力	30,893	21,151	—	52,044	260,200 本分
燃 料	23,272	68,352	—	91,624	458,100 本分
車両燃料	—	—	33,371	33,371	166,900 本分
合 計	54,165	89,503	33,371	177,039	885,200 本分
ドラム缶換算	270,800 本分	447,500 本分	166,900 本分	885,200 本分	

※原油換算量 (kL) とともに、ドラム缶 (200L/本) に換算した本数で比較表記しています。

燃料 : ガス、灯油など電力以外のエネルギー

車両燃料 : ガソリン、軽油など車両用のエネルギー 資料 : 安芸高田市地域省エネルギービジョン、安芸高田市

表 2-11 二酸化炭素排出量(平成 20(2008)年度)

					二酸化炭素換算 (t-CO ₂)
	民生部門	産業部門	運輸部門	合 計	
電 力	81,849	55,230	—	137,079	
燃 料	60,973	179,081	—	240,054	
車両燃料	—	—	87,432	87,432	
合 計	142,822	234,311	87,432	464,565	

※推計には、電力：電力の二酸化炭素排出係数 0.555 t-CO₂/千 kWh

燃料：原油の二酸化炭素排出係数 2.62 t-CO₂/kL を用いています。

燃料 : ガス、灯油など電力以外のエネルギー

車両燃料 : ガソリン、軽油など車両用のエネルギー 資料 : 安芸高田市地域省エネルギービジョン、安芸高田市

② 省エネルギー・新エネルギー

総合文化保健福祉施設（愛称：「クリスタルアージュ」）の屋根部分に太陽電池パネルを設置し、クリーンな太陽光発電により、約100 kWの施設電気使用量を賄い、二酸化炭素排出量削減に取り組んでいます。また、アトリウム内部は、原則冷暖房を行わず、床下に設けた地中埋設パイプに一旦外気を通してアトリウム内部に放出することで換気空調を行い、温度調整を行うなど電力使用を削減し環境への配慮を行っています。



(5) 市民・団体・事業者の環境意識

環境基本計画の策定にあたり、市民を対象としたアンケート調査、団体、事業者に実施したヒアリング調査により、市民、団体、事業者の意見と意識を抽出し、整理しました。

① 市民アンケート調査

現在の環境保全活動

割合の高いもの

- ・山や川などにごみを捨てない (95%)
- ・ごみは地域のルールに従ってきちんと分別して出す (88%)
- ・照明をこまめに消すなど節電を心がける (84%)
- ・買い物袋を持参したり、過剰な包装を断る (81%)
- ・油や食べかすなどを排水口から流さない (73%)

割合の低いもの (外来生物除く)

- ・環境について学んだり体験したりする学習会・講演会に参加する (11%)
- ・地域の自然保護活動 (生き物保全、森林保全等) に参加する (12%)
- ・休耕地を有効活用する (17%)
- ・太陽光パネルや太陽熱温水器を設置するなど環境にやさしいエネルギーを導入する (22%)
- ・周囲の景観に配慮し調和したまちなみを維持する (29%)

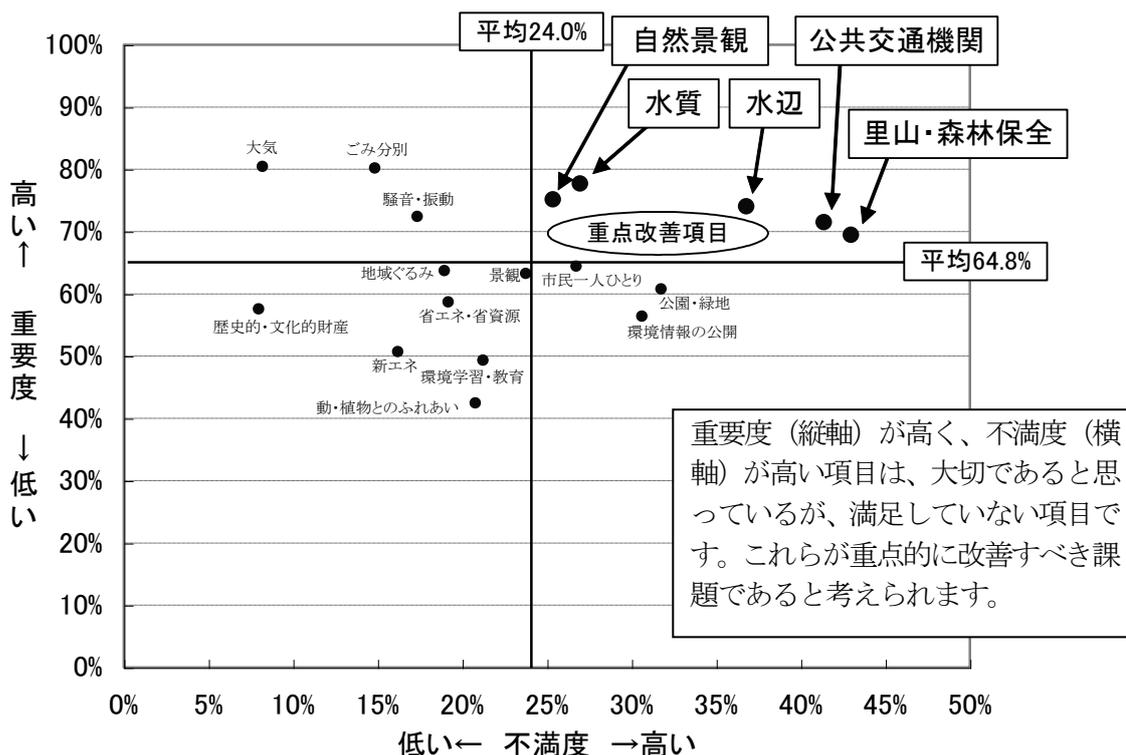
環境に対する不満度と重要度

不満度の高いもの (やや不満+不満)

- ・里山や森林の保全状況 (42%)
- ・公共交通機関の整備状況 (42%)
- ・川や池などの水辺のきれいさ (37%)
- ・公園や緑地などの公共空間の整備状況 (31%)
- ・行政・企業による環境情報の公開 (30%)

重要度の高いもの (とても重要+重要)

- ・生活ごみの分別・収集・マナー (81%)
- ・空気のきれいさ (80%)
- ・川の水のきれいさ (79%)
- ・山や川などの自然の景観の美しさ (75%)
- ・川や池などの水辺のきれいさ (74%)



重要度（縦軸）が高く、不満度（横軸）が高い項目は、大切であると思っているが、満足していない項目です。これらが重点的に改善すべき課題であると考えられます。

- | | | | |
|------------|----------------------|---------|-----------------------|
| ※自然景観 | : 山や川などの自然の景観の美しさ | 景観 | : まちなみの美しさ（景観） |
| 水辺 | : 川や池などの水辺のきれいさ | 公共交通機関 | : 公共交通機関の整備状況 |
| 動・植物とのふれあい | : 山や身近に見かける動植物とのふれあい | 公園・緑地 | : 公園や緑地などの公共空間の整備状況 |
| 里山・森林保全 | : 里山や森林の保全状況 | 省エネ・省資源 | : 市民の省エネルギー・省資源への取り組み |
| 大気 | : 空気のきれいさ（大気） | 新エネ | : 新エネルギー機器などの利用状況 |
| 水質 | : 川の水のきれいさ（水質） | 環境情報の公開 | : 行政・企業による環境情報の公開 |
| 騒音・振動 | : 家のまわりの静かさ（騒音・振動） | 環境学習・教育 | : 市民の環境学習・環境教育の状況 |
| ごみ分別 | : 生活ごみの分別・収集・マナー | 市民一人ひとり | : 市民一人ひとりの環境に対する意識 |
| 歴史的・文化的財産 | : 歴史的・文化的財産の保全状況 | 地域ぐるみ | : 地域ぐるみの環境への取り組み |

将来進めるべき重点施策

- ・森林の荒廃防止（64%）
- ・安全な道路空間の確保と交通環境の整備（61%）
- ・大気汚染・水質汚濁・騒音・悪臭などの公害防止への取り組み（60%）
- ・不法投棄防止対策の推進（55%）
- ・水資源の保全（51%）

事業者に期待する取り組み

- ・大気汚染・水質汚濁・騒音・悪臭などの公害防止への取り組みの強化（65%）
- ・二酸化炭素の発生抑制などの地球温暖化防止対策の促進（50%）
- ・太陽エネルギーなどを利用した新エネルギー対策への取り組み（43%）
- ・植林などの自然回復事業の実施（42%）

環境活動への参加

- ・参加意識 既に活動している（9%）
- ・活動活発化のための取り組み 環境に関する様々な情報の提供（21%）

② 団体ヒアリング調査

11月10日、11日、17日に5つの団体にヒアリングを実施、主な意見等をまとめました。

各団体が実施している取り組みとしては、廃棄物対策、地球温暖化防止対策などがありました。また、今後の予定としては、自然環境、廃棄物、環境学習に関する取り組みなどがありました。

表 2-12 団体ヒアリング調査結果

項目	ヒアリング内容
環境への取り組みの現状	廃棄物 ●不法投棄対策、資源回収を実施している 地球温暖化防止 ●住宅用太陽光発電の普及に努めている 環境学習 ●水辺教室等を実施している
今後の取り組み予定	自然環境 ●山と水の関わりを PR する ●森林の体験学習を進める 廃棄物 ●生ごみ対策を進める 環境学習 ●職員の勉強会を開く 全般 ●昔の暮らしの良さを継承する ●上部団体の環境保全方針・計画に沿って事業を実施する
課題・要望	全般 ●組織の整備が必要である ●設備等への補助があればよい

③ 事業者ヒアリング調査

11月11日から19日に14社のヒアリングを実施し、主な意見等をまとめました。ヒアリング先は、ISO14000認証取得事業者、エコアクション21認証登録事業者の中から4社、省エネルギービジョン策定時のアンケート対象事業者一覧から10社、計14社としました。後者については、対象事業者一覧から規模の大きな事業所を町ごとに2、3社ずつ選定しました。

ヒアリング内容は、事業所の概要、事業所周辺の環境について日頃感じていること、事業所の環境への取り組み、事業所が環境活動に取り組むための課題等についてです。

事業所ごとに環境負荷の軽減に努めていますが、費用負担の問題もあり、今以上の取り組みは難しいとの回答もみられました。

表 2-13 事業者ヒアリング調査結果

項目	ヒアリング内容
事業所周辺の印象	自然環境 ●全て（の項目で）満足 ●山林の荒廃、人工林の多さは不満 生活環境 ●工業用水として山水が使えるのはよいが、上水道があるとなお良い 地域環境 ●道路が狭いのは不満 ●公園が少ないのは不満
環境経営が求められる時流に対して	●環境負荷削減がムダの削減につながりコスト削減になったのはメリット ●リサイクル製品が販売可能になったことはメリット ●環境配慮のための設備投資はデメリット
環境配慮活動への取り組み	省エネ等 ●省エネルギー、コピー用紙削減による廃棄物削減 地域貢献 ●事業所周辺の清掃を実施
環境経営への取り組み	●エコアクション21の認証取得 ●ISO14001の認証取得
課題・市への要望	●環境配慮の設備導入等への補助金を充実させてほしい ●環境配慮手法の講習会を希望
環境保全に貢献できること	●地域の環境保全活動への参加

